

私達と未来を繋ぐ架け橋

茨城県立土浦第一高等学校附属中学校 2年 吉村 咲樹

近年、環境問題が世界的に深刻化し、特に地球温暖化は急速に進みつつある。それらを抑制するため、国内ではプラスチック製買物袋の有料化や3Rの促進など様々な取り組みが行われてきた。そしてまた税金も、環境を守るための大切な役割を担っている。具体的には、「地球温暖化対策のための税」がある。これは、原油やガス、石炭など全ての化石燃料に対して、二酸化炭素排出量に応じて課される税金で、税収は省エネルギー対策、再生可能エネルギー普及、化石燃料のクリーン化や効率化などのために使われる。この課税により燃料費が上昇したことでエネルギー需要が減少し、二〇一九年度の二酸化炭素排出量は前年度に比べ約三二〇万トン減少した。これは二五メートルプール約三二〇万个分に相当し、今後もさらなる二酸化炭素削減効果が期待出来そうだ。また、イギリスのロンドンでは、「コンジェスション・チャージ」と呼ばれる税金がある。この課税により、ロンドンでは交通渋滞が約三〇パーセント緩和された上、交通量の減少に伴い自動車の排気ガスも減少し、大気汚染が軽減されたという。このように、私達は税金を通して環境保全に携わっているのである。

また、税金は環境問題だけでなく、私達の生活環境を整えることにも貢献している。例えば、私達が当たり前のようにお風呂やトイレを使ったり、安全な水を飲むことが出来たりするのは、税金によって上下水道の整備がされているからであるし、通勤や通学に使う道路の整備も税金でまかなわれている。他にも、駅のホームドアや視覚障害者誘導用点字ブロックの設置にも補助として税金が使われており、地域のバリアフリー化に役立っている。

今までの具体例から分かったことがある。それは、税金は環境にも人にも優しいものだということである。つまり、税金はよりよい地球環境と人々の生活環境を支え、豊かな未来を築いているのだ。私は今まで、税金は生活環境の改善のためだけに使われるものだと考えており、環境問題の抑制に関わっていることなど思ってもみなかったし、正直税に対してあまり肯定的な見方をしていなかった。しかし、今回税についての作文を書いたことで、税の新たな在り方を知ることが出来たと同時に、税に対する考え方を改める必要があると感じた。なぜなら、税金は住民の理解がなければ成り立たないものだからだ。税金は、私達と、豊かな環境や輝かしい未来との架け橋となるということをよく理解し、未来へのバトンを繋いでいく必要がある。そのため私も、この機会だけで終わらせず、これからも税金に関する知識を積極的に取り入れ、理解を深めていきたい。そして、今後、税金に対してこうした積極的な姿勢をとる人が増えていくことを切に願う。